

# ATAM PRESS

003

Arima Toys & Automata Museum

797 Arima Kita-ku Kobe city

Hyogo pref. 651-1401 Japan

tel 078 903 6971 fax 078 903 6981

## ■ ライフェンドレーエン ■

旧・東ドイツ、チェコと国境を接するところにエアツゲビルゲと呼ばれる地域があります。俗に「エルツ地方」と呼ばれる山地ですが、このエルツ地方はおもちゃの生産地として有名なところ。エルツ地方には約 2000 軒のおもちゃを作るアトリエや工場があるとされています。そのエルツ地方でも特に有名なのが「ザイフェン」。ザイフェンの人口はたったの3000人。その内の 2000人がおもちゃの生産に従事しているという「おもちゃの村」です。村のメイン・ストリートには50軒以上のおもちゃ屋が立ち並び、クリスマス市が始まる頃には、世界中から観光客が押し寄せます。チャイコフスキーのバレエ組曲のモチーフになった、あの「クルミ割り人形」が初めて作られた村としても有名な村。エルツがドイツ語で「鉱石」を意味するように、もともとザイフェンも鉱山で栄えた村でした。その昔、エルツ地方で採掘される銀や錫の産出でドイツは大いに栄えましたが、30年戦争による国力の衰退、ペストの流行やナポレオンの侵略といった大きな事件が相次いだことで、エルツ地方の鉱山も徐々に衰退していきます。エルツ地方は大森林地帯でもありましたから、人々は山の木を切り出し、皿やキャンドルスタンド・・・といった日常雑器の生産で糊口をしのいでいくようになり、次第におもちゃの生産に従事するようになっていきます。エルツの人々がおもちゃの生産に従事する背景にはアメリカの台頭という歴史がありました。アメリカはもともとピューリタンの国。子どもですら安息日、つまり日曜日にしか遊んではいけないという戒律があり、その遊びの道具であるおもちゃも宗教に関連するモノだけが持つことを許された・・・という歴史があるのです。これらのおもちゃのことをSunday Toy / 日曜日のおもちゃと呼びます。キリスト降誕のシーンを表したフィギュアであるとか、多くの動物が登場するノアの方舟のセットであるとかがそれです。エルツ地方に住む人々が作るおもちゃは、その技術の確かさや色彩の美しさが評判となり、大量に生産されるようになっていきますが、その時代の仲介業者、つまりおもちゃ問屋の多くはドイツのニュールンベルクに拠点を構えていて、エルツ地方で生産されるおも

ちゃも、エルツ⇒ニュールンベルク⇒アメリカ、またはニュールンベルク⇒ヨーロッパ各地・・・と販路が拡大していったことで、人々は様々なおもちゃの量産方法を編み出していきます。ザイフェンでは伝統に則って今も様々なおもちゃが生産され、様々な技術が伝承されていますが、その中でも特筆に値するのが「ライフェンドレーエン」という技術。木製の丸いドーナツ状のバウムクーヘンをイメージしてみてください。そのバウムクーヘン状のものを縦に50～60個に薄くスライスすると、中からライオン、コウノトリ、馬、カバ、象、ウサギ・・・といった様々な動物が現れるという技術。ライフェンドレーエンを言葉で表現するのはとても難しいのですが、金太郎飴をリング状にしたようなモノで、切っても切っても中からは同じ形をした動物が現れる技術・・・というのが一番適切であるような気がしま



す。さて、10月4日から5日にかけて、ザイフェンからスザンネさんと榎村真穂さんが有馬にいらっしやいます。スザンネさんはザイフェンの「エルツ玩具博物館」の館長でいらっしやるアウアーバッハさんの娘さん。榎村さんはザイフェンに単身乗り込んで、ろくろ技術のマイスターであるヴォルフガング・ヴェルナーさんのアトリエでおもちゃ作りの修行をしてきたという日本人女性です。有馬玩具博物館では、お二人によるライフェンドレーエンの技術で作られた「馬」のおもちゃ作りの教室を開催いたします。有馬の馬です。

<ライフェンドレーエンのおもちゃ教室>

講師：スザンネ・アウアーバッハ / 榎村真穂

10月4日 / 12:00～17:00

10月5日 / 10:00～15:00

参加費：500円

ATAM PRESS 003号

2003年09月18日

発行：有馬玩具博物館

発行人：西田明夫

住所：651-1401 兵庫県神戸市北区有馬町797

tel 078 903 6971 fax 078 903 6981